

2006年1月13日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2005年12月度 高島屋営業報告

【総計】(前年対比、単位：%)

株高島屋計	分社4店含む実質
+2.9	+3.2

百貨店事業、広域事業ともに前年売上実績を上回り、分社4店含む実質では+3.2%と好調であった。前年実績のクリアは9月度以降、4ヵ月連続となった。

分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
+2.7	+2.9

厳冬に伴う防寒衣料、お歳暮、クリスマス関連や「おせち」等の季節商材の動きが良く、売上は前半から前年実績を上回って推移した。関西地区は+1.6%、関東地区は+3.8%、18店計では+2.9%となり、大型5店をはじめ、玉川店・立川店・岡山店・岐阜店等の12店が前年実績をクリアした。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大坂店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	+0.7	+0.8	+2.2	+5.4	+11.6	2.7
入店客数	4.3	3.4	+3.2	+3.6	+2.2	0.6

大坂店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

大坂店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+6.6	+4.0	+2.0	+4.3	+0.6	3.0	+1.7	+6.1
入店客数	+2.6	+1.5	6.0	+1.6	1.3	1.1	+0.2	+4.0

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
+0.9	+1.6

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
+3.7	+3.8

関西地区では、大坂店は特選衣料雑貨が苦戦したが、紳士服・婦人服・宝飾品等が売上を伸ばし、前年実績を上回った。京都店ではリビングや食料品等が伸び悩んだが、紳士・婦人ファッション商品群が好調。岐阜店は10月の全館リニューアルの効果が大きい婦人雑貨・食料品等が好調で、前年実績から2桁売上を伸ばした。

関東地区では、東京店は紳士服・特選衣料雑貨・宝飾品・呉服等が前年から2桁売上を伸ばした。横浜店でも特選衣料雑貨・宝飾品等の高額商品群と紳士・婦人のファッション商品群が好調。新宿店はリビング・食料品が伸び悩むものの、紳士服・雑貨が好調で前年実績を上回った。玉川店・高崎店ともに特選衣料雑貨・宝飾品等の高額商品群が売上を2桁伸ばし、好調を持続した。

お歳暮ギフトセンターは、各店立上りからの累計売上が+7.1%(18店計)で、前年実績を大きく上回って推移した。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域計
売上高	+5.3	+10.7	+7.5

法人事業は、企業向けの販促品や制服の受注が好調で前年実績をクリア。通販事業はファッション商材、リビング用品、食料品が好調で前年実績から2桁増。中でも「おせち」は約30%売上を伸ばした。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

	株高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋品	+6.0	+6.0
婦人服・洋品	+2.9	+3.1
子供服・洋品	+1.0	+0.6
その他衣料品	+11.0	+9.8
衣料品計	+4.2	+4.2

	株高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	+4.3	+4.5
家具	15.5	14.9
家電	8.4	7.6
その他家庭用品	+6.9	+6.9
家庭用品計	0.5	0.2

	株高島屋計	分社含む実質
食料品	+0.8	+1.4
食堂・喫茶	+3.6	+4.2
雑貨	+6.2	+5.9
サービス	1.7	1.7
その他	1.5	1.4
合計	+2.9	+3.2

当社分類による百貨店事業の商品別概況

厳冬の影響から、紳士服(前年対比+8.5%)や婦人服(同+4.2%)ではコートやセーターが好調。紳士雑貨(同+6.3%)・婦人雑貨(同+4.3%)でもマフラーや手袋、保温性の高い機能性肌着等が好調。特に、カシヤやファー等の高級素材使いの商品に動きが見られた。また、時計や宝石・貴金属が好調な宝飾品(同+7.5%)、特選衣料雑貨(同+7.0%)、呉服(同+2.9%)等の高額商品群も前年実績を上回った。食料品(同+0.2%)は、10月の承り開始から累計売上が2桁増となった「おせち」も好評で、堅調に推移した。